



平成 30 年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課農薬対策室

平成 31 年病害虫防除対策を検討するにあたり、平成 30 年の天候経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、平成 30 年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、表-2 に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

1 2018 年（平成 30 年）冬（2017 年 12 月～2018 年 2 月）の特徴

（1）日本付近に強い寒気が流れ込む日が多かったため、全国的に気温が低かった。

（2）冬の降雪量は、西日本日本海側ではかなり多く、東日本日本海側が多かった。北～西日本日本海側では発達した雪雲が日本海から頻りに流れ込んで記録的な大雪となった所があったほか、北・東日本太平洋側でも低気圧の影響で大雪となった日があった。

（3）冬型の気圧配置が卓越したため、冬の日照時間は東・西日本の太平洋側が多かった。

2 2018 年（平成 30 年）春（3～5 月）の特徴

（1）期間を通して暖かい空気に覆われやすかったため、全国的に気温の高い状態がおおむね持続し、平均気温はかなり高かった。

（2）低気圧の通過時に、南から湿った空気が流れ込みやすかったため、北・東・西日本では降水量が多く、北・東日本日本海側ではかなり多かった。一方、沖縄・奄美では、湿った空気や低気圧の影響を受けにくかったため、かなり少なかった。

（3）東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、日照時間がかなり多かった。

3 2018 年（平成 30 年）夏（6～8 月）の特徴

（1）太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強く、晴れて気温が顕著に上昇する日が多かったため、東・西日本は夏の平均気温がかなり高かった。

（2）北日本日本海側は梅雨前線や秋雨前線の影響で、西日本太平洋側と沖縄・奄美は台風や梅雨前線の影響で記録的な大雨の日があったため、夏の降水量がかなり多かった。

（3）6 月終わりから 7 月はじめにかけて、活動の活発な梅雨前線や台風第 7 号の影響を受けて西日本を中心に全国の広い範囲で記録的な大雨となり、「平成 30 年 7 月豪雨」が発生した。このほかにも、台風や前線等により全国各地で大雨が発生した。

（4）日照時間は、東日本と西日本日本海側ではかなり多かった。

4 2018 年（平成 30 年）秋（9～10 月）の特徴

（1）9 月の気温は、北日本では暖かい空気に覆われる日が多く高かったが、東・西日本では、大陸から寒気が南下する時期と、日本の南から暖かい空気が流れ込む時期があり、平年並だった。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れたほか、南から暖かい空気が流れ込む時期もあったため、かなり高かった。10 月の気温は、北日本では、南から暖かい空気が流れ込んで気温がかなり高くなった。一方、沖縄・奄美では北から冷たい空気が流れ込みやすく、かなり低かった。

（2）9 月の降水量は、東・西日本では、秋雨前線の停滞や、台風の影響により多くなった。10 月の降水量は、秋雨前線の影響が少なく東・西日本の太平洋側で少なくなった。一方、北海道地方では、台風から変わった低気圧の影響でかなり多く、沖縄・奄美では、前線や台風の影響で多かった。

（3）9 月の日照時間は、秋雨前線が停滞しやすかった東・西日本でかなり少なく、北日本と沖縄・奄美では平年並だった。また、10 月は、北日本日本海側と西日本太平洋側で多く、沖縄・奄美では少なかった。

（参照）
気象庁ホームページ

Occurrence of Pests and Diseases and Their Control in 2018 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：平成 30 年度、病害虫、発生動向、農薬、出荷状況）